

「Tokyo アート」～話題の現代アートギャラリーを巡る～

2017年5月30日（火）実施 JGA 第一支部研修 終了レポート

5月30日（火）、10:30～16:00、最近世界からも注目されている日本の作家の作品を扱う、現代アートギャラリーを巡る「Tokyo アート」研修を実施しました。

陽射しの眩しい暑い日でしたが、23名（正会員20名、運営委員3名）が集い、東品川、六本木エリアのギャラリーを訪問しました。

講師の藤川 真美氏は、現代アートギャラリーにインターンとして2年間所属して現代アートの基礎を学んだ後、シューゴアーツスタッフとして2年間勤務され、現在は日本の若い現代アートおよび作家を世界のアート界に発信紹介の労にあたられています。

最初に2016年9月10日にオープンしたばかりの、アートの複合施設〈TERRADA Art Complex〉へ。道々、藤川講師が各ギャラリーが推す日本の作家についてお話しされましたが、ご本人のアートへの熱いお気持ちが説明から感じられます。倉庫を改造したとあって、まず咄嗟に入口がわからない建物自体が現代アートのようなビルです。山本現代、URANO、ユカ・ツルノ・ギャラリー、児玉画廊、KOUSAKU

KANECHIKAを訪問。全体にシンプルな、作品が主役になるようなインテリアです。純粋に作品を見せるため、タイトルや値段を敢えて表示しないギャラリーも多いです。



六本木に移動後、ランチを兼ねた休憩を取り、次に訪れたのはcomplex665。現代アートで困った時にはここに来れば間違いない、というShugo Artsを訪問、メジャーな作家の作品が一堂に展示されていて、一同圧倒されました。

最後に六本木ピラミデビル。タカ・イシイギャラリーなど、評価の高いギャラリーが5つ入っています。海外でも知られた、仏教美術に強い骨董のロンドンギャラリー、いかにも真面目な写真作品を扱う禅フォトギャラリーを訪ねました。

値段があって無きがごとのアート界、入り

にくいと敬遠する人もいますが、まずは自分が好きな作家や作品を見つけること、次に信頼できるギャラリーを見つけ、意見や評価を聞くこと。

参加者全員が、何か新しい眼を得たように感じる研修でした。

